



一年を振り返って

日中国交正常化 45 周年を迎えた 2017 年の活動も例年と同じように久屋広場で行われた春節祭から始まりました。今年は規模も拡大して、エンゼル広場も新たに会場になり、過去最高の来場者数だったと聞いておりますが、我々のブースのあったエンゼル広場側は少し寂しかった気がします。

5 月には弁論大会を実施し、7 月下旬には上山奨学財団より 8 名の高校生を中国へと派遣し、高田先生の 2 回のご講演、鄧偉総領事のご講演など、定例会の開催にも取り組んでまいりました。中国の方々と直接交流を促進するという意味では、納涼親睦会で中国からの訪問団を招待することができました。ただ、旅行に關しましては今年も実施することが叶わず、反省点として残ってしまいました。

また、文化協会としまして今後の運営をよりよくしていくために、何をすべきか、運営の体制をどうすべきかなどを議論するために臨時の理事会を開催しました。さらなる議論を重ねて、よりよい協会を創っていかねばいけないと考えております。その点では、

全体で危機感を共有できた一年でもありました。来年は、是非日々の運営に反映させたいと考えております。

全体的には、国交正常化 45 周年ということもあり、日中文化協会だけでなく様々なところで、いろいろなイベントが開催され、冷え切っていた日中関係に少し希望の光が差したような一年だったと思います。

来年は、日中平和友好条約締結 40 周年、更には名古屋 - 南京の姉妹都市提携 40 周年にあたります。来春早々、第 12 回春節祭は 1 月 6 日から 8 日まで行われます。エンゼル広場の日中文化協会のブースを、会員の皆さんの参加で盛り上げましょう。また三月には会員旅行を計画しております。多くの会員の皆様とともに中国を訪問できたらと考えております。

末筆になりますが、来年が皆様にとりまして、よい年になりますよう、心より願っております。今年一年お付き合いいただき、ありがとうございました。来年もどうぞ、よろしくお願いいたします。

上山伸治

月例会報告

12 月 5 日の例会は、栄の「四季茸」にて毎年恒例の忘望年会を行いました。



今回の忘望年会は、四季茸で開催しました。栄の繁華街の中にあるお店で、日中文化協会の宴会で利用するのは今回が初めてのことでした。



鍋は辛いものと辛いものを選択することができ、美味しいものばかりです。中国料理きのこ鍋を存分に堪能することができました。

プリンセスガーデンホテルの西に位置し、通りには大きな看板が出ているので、見つけ易いお店です。いつも行く延辺館の姉妹店だそうです。



臨時の助っ人として、上山学院の何欣瑞（カキンズイ）君もアルバイトで参加しました。馴染みの顔を見て、皆さんも喜んでいました。



きのこ鍋専門店というだけあって、普段あまり見ないきのこまで出てきました。赤いのはとき色ひらたけ、奥のもじゃもじゃしたのはやまぶしだけです。



杉原さんの尺八と甲斐さんの詩吟、椛山先生と歌う甜蜜蜜、抽選会など、今年最後の宴会も大いに盛り上がりました。来年も良い年になりますように。

種を食べる文化

日本ではあまり馴染みがないのですが、中国には花や野菜、果物の種を食べる文化があります。市場や商店街へ行くと、店先で種をポリポリ食べながら、殻をポイポイ捨てている人に必ず遭遇するほどです。

ヒマワリ、カボチャ、スイカなどの種はとても一般的で、乾燥させて炒ったものが、どこに行っても大量に置いてあります。しかし、これらの種を上手に食べるためには、それなりの熟練を必要とし、枝豆のように誰でもすぐに食べられるという

わけではありません。

種によって難易度も異なり、私自身が食べた中では、ヒマワリの種が一番易しかったです。力加減を間違えなければ縦に割ってくれるので、そのまま押し潰して中の実を取り出すことができます。

カボチャの種は殻が少し柔らかいので、まずは手前に絞るようなイメージで端っこに亀裂を入れ、少しずつ広げていきます。力を入れすぎると粉々になってしまうので、亀裂が全体に及ぶまでは油断できませ

ん。中々難しいです。

スイカの種に至っては、何回やっても真っ二つにしてしまい、いまだに上手に殻を割ることができないほど難しいです。

種を食べるといいうのは中々とつきにくい面もあるのですが、栄養価は高く、捨ててしまうのが勿体ないほどだそうです。皆さんも一度挑戦してみたいかがでしようか。



成語故事コーナー

jīnggōngzhīniǎo

惊弓之鸟 (傷弓の鳥)

昔、魏の国に更羸という有名な弓兵が居ました。ある日、更羸と魏王が一緒に狩りに出かけたとき、遠くから大きな鳥が飛んで来ました。

更羸は魏王に言いました。

「陛下、私がこれから魔法を披露致します。この弓であの鳥を仕留めてみせましょう。」

そして、矢をつがえないまま弓だけを構えます。それを見て魏王は思わず笑って言いました。

「それで何を飛ばすというのだ？」

失敗や恐怖に遭った経験により、必要以上に脅えてしまうことの例えです。更羸という射手の名前は調べればすぐに出てくるのですが、残念ながらこの故事以上の内容を見

それでは何も射ることができないだろう。」

更羸は平然と答えます。

「それが、できるのですよ。ご覧ください。」

鳥が更羸の真上に来たとき、更羸は弓を弾きました。しかし、弾いた音がただけで、もちろん矢など飛んでいません。

ところが、まるで矢に射られたかのように、鳥が落ちてくるではありませんか。

付けることはできませんでした。

こういった意味合いの言葉は他にも色々あり、「一朝被蛇咬，十年怕井绳」「懲羹吹齏」など、日本語でも思い当たりそうな言葉が並ん

魏王は驚きました。

「こんなことあり得ないだろう。一体何が起きたのだ？」

更羸は楽しそうに説明しました。

「実は弓の技ではないのです。この鳥は怪我をした痕があり、群れからはぐれていました。つまり、他の誰かに一度射られているのですよ。そこで私は、弓を弾く音を聞かせてみせました。案の定、鳥は脅えてもっと高く飛ぼうとし、古傷が痛んで落ちてきた、という訳です。」

でいます。面白いもので、このことわざには同じような意味の様々なバリエーションが存在します。確かに、どんな場面でもよくありそうなことですよ…。

漢方教室 84 霊芝の健康パワー

【霊芝とは？】

数千年前から健康維持の大切な栄養素として愛飲されてきた霊芝は、過酷な環境の中で生き抜くキノコです。霊芝には、βグルカン、アミノ酸、ビタミンが豊富に含まれており、「完全食」とも言われています。また、減少すると不調の原因ともなるミネラルも豊富に含まれています。

【霊芝の栽培】

霊芝には、「野生霊芝」「栽培霊芝」がありますが、自然界に自生で発生する野生霊芝はほとんど見つけれられません。

霊芝は、まわりの環境の影響を受けやすいキノコの一つです。安全性

の観点から、「自然もの」の野生霊芝はできません。

霊芝の栽培方法には、「容器栽培」と

「原木栽培」があります。容器の中で栽培するのが容器栽培で、培養した種菌を原木に植え付けて栽培するのが原木栽培です。よい霊芝を作るには原木栽培が最適です。自然原木栽培は、もっとも手間のかかる方法ですが、本来の霊芝の力を最大限に高めることができます。

【日本安恵霊芝】

日本安恵の霊芝は、自然原木栽培の霊芝を原料としています。霊芝の



主成分であるβグルカンは、水に溶けない性質で、煮出すだけではなかなか取り出すのが難しいものです。そこで、日本安恵霊芝は、吸収性の高い水溶性βグルカンとして製品化しました。さらに、特殊な発酵分解の技術を用いて低分子化し、吸収しやすくしてあります。



高吸収「フノ低分子化」霊芝

興味のある方は、フリーダイヤル 0120-045-539 まで。中統ビル3階 日本安恵株式会社

中国からの引き揚げ—思い出すがままに⑦

最近北朝鮮の木造船が、東北や北陸の日本海側の沿岸に漂着するニュースが報道されています。このニュースに接するたびに、満洲からの引揚げ船のことが思い出されます。

1946年10月、終戦から1年以上もたってようやく日本への引揚げが始まりました。早い時期に引揚げが実現しなかったのは、中国国内の国共内戦、日本には、戦争で多くの船を失い、引き揚げ船として使う船が少なかったこと、そして資金不足等、様々な原因があったからです。引揚げ実現には、中国、アメリカ、ソ連などの国々の思惑もあったと思われます。中国としては、内戦中の国内の在留日本人の存在は、好ましい状況ではありません。日本人に食べさせる食料もばかにならなかったでしょう。アメリカ、ソ連にとっても冷戦に入っていく国際状況からみれば、満洲、東南アジア、朝鮮半島、台湾等にいた日本人を早く引き揚げさせることは、急務だったのではないのでしょうか。

こうして私たちは、日本へ引揚げることになりました。住んでいた丹東は、もう冬支度が始まっていました。引揚げに当たって、持ち物は厳しく制限されていました。貴重品、写真、危険物は、持ち出せません。現金も上限が決まっていたと思います。そこで母は、現金を子どもの衣服の目立たない所に縫いつけて持って行くことにしました。それがのちに随分役立ちました。乗船料一人2000円、父母、叔母二人、子ども5人ですからかなりの額だったと思います。丹東と北朝鮮の新義州の間を流れる国境の川、「鴨緑江」河岸にとまっている木造船に乗り込みました。

杉本克治

ハンドヒーリング

最近、ハンドヒーリングを習い始めました。体の表面にある違和感（刺激感や熱感）を手のひらで感じ取って、気を通していく手法で、もともとは昔母や祖母が子にしていた手当てにいきつき、誰もが持っていた能力だそうです。

セミナーの最初は部分的な基本の技法から始まり、半信半疑でしたが、修行してチャクラを開けたりするのに比べ、なんてシンプルな取得方法なんだろうと簡単に考えていました。しかしセミナーも後半に入り、一から自分で全身を見る最終段階の技法になってみると、その考えは甘かったと痛感させられました。力を発揮するには、心がシンプルでまっすぐな意思が必要とのことで、五百人、千人やればわかるとのことで、理屈を色々考える人は遅いタイプとのことです。獣医師である私には理屈なしに取り組むのは難しく、後者の遅いタイプみたいですが、歯科医や医師も参加しているので、励まし合いながら頑張りたいと思います。

上山 有里子



「世界の瓷都・景德鎮生活を総括して」①

～景德鎮陶瓷（とうじ）大学教授として、8年半にも亘る駐在生活から感じたことは～

2017年7月29日午後3時、中部国際航空便 CA405 便にて中部国際空港に到着。8年半に及ぶ景德鎮での私の活動は一応終止符を打つこととなる。

愛知県立窯業高等技術専門校を定年まで勤めて、縁あって中国・江西省景德鎮陶瓷大学に、初めての日本人常駐の陶芸教員として赴任した。当初は常駐という生活環境の中では生活習慣や言葉の壁で、当惑や新鮮な出会い等さまざまな悩みと感動を数多く体験した。専門校勤務時代に、毎年修了式を終えてから1週間から10日間、卒業生やその関係者を引率して中国全土の陶産地

を巡る事25年間を経過しての赴任であった。普通の観光とは若干趣の異なる訪問であった。

日本同様に、中国も陶産地は交通不便なところが多くて、移動は大変であった。この陶産地巡りの結果が、8年半の赴任に少なからず多少の自信となったことは事実であろう。中国の大学教員の仕事内容や自分の置かれている使命の位置が明確になるには3年を要した。陶産地巡りの中で景德鎮陶瓷大学を訪問していて、そのつながりで私の赴任が実現をみた。当時から交流のあった周副院長が後に院長（学長）となられて、私の意

向も組んでいただき赴任が進捗した。周院長は教授時代に瀬戸市にある国の研究機関で窯業工学を学ばれていて、日本語も理解されているという事も幸いした。

また、当時の研究機関での日本人研究者の応援もいただいたことも、更に赴任を確実にした。赴任に関して応援して頂いた関係者には大変感謝しています。貴重な特異な体験で、その体験は色々な形で恩返しができたと自負しております。

景德鎮陶瓷大学元教授
二十歩（にじゅうぶ）文雄

お知らせ

★1月例会

1月の月例会はお正月につきお休みです。

★JCCA 中国語サロン

日時：1月6日（土）20日（土）14：30～

★日本語広場

1月の日本語広場はお休みです。

★第12回 名古屋中国春節祭

日時：2018年1月6日（土）～ 8日（月・祝）

★2月例会

2月の月例会は春節祝賀会です。

★会員旅行

久しぶりの中国旅行を計画中です。

会員旅行のお知らせ

お待たせ致しました！現在、久しぶりの日中文化協会会員旅行を企画中です。下図のように、3月半ば頃から、南京・武漢・信陽と訪れる予定です。

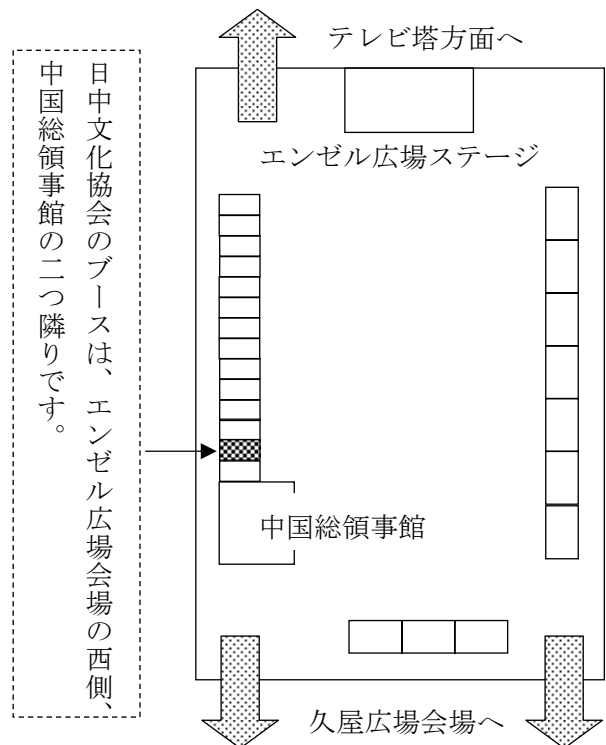


詳細は次号よりお伝えして参ります。
ご期待ください！

第12回 名古屋中国春節祭

今回12回目の名古屋の春節祭に日中文化協会は第1回目から参加。会場にブースを設営し協会の活動のアピールと共にバザーを行ってきました。珍しいものがあるというので固定客もできて「あれ 今年はお茶ないの？」など声をかけられたりします。出品物は主として会員の皆さんのご厚意による提供品によるものです。今回も中村厚子さま、新井さまなどからご提供いただきました。また会員ではありませんが、中国人形玩具研究者の伊藤三郎氏が中国で収集された民芸品も出品させていただいております。皆さまのご協力ありがとうございます。

ブースでは中国語や日本語取り混ぜての会話が飛び交い楽しいです。ブースはいつも人手不足です。ぜひご参加ください！



編集局

編集局では現在、携帯電話番号、生年月日、E-Mail アドレスのご登録を推奨しています。イベントのご案内、「誕生日の人の言葉」の掲載、WEB サイト更新の通知などに使用致します。china@chuto.co.jp 宛にご送付ください。ニューズレターは、WEB サイトにてカラー版を公開しています。郵送不要の方は「郵送不要」とご連絡ください。



〒460-0008 名古屋市中区栄 4-16-29 中統奨学館
TEL：052-262-1410 FAX：052-262-5036
一般社団法人日中文化協会 編集長 上山耕治